

Sputnik 日本

2023 年 2 月 22 日

プーチン大統領の年次教書演説

(AALA ニュース編集部による要約 + 小見出し)

はじめに

今日、世界において抜本的かつ不可逆的な変化が起き、我が国と我が国民の未来を決定づける重要な歴史的に最も重要な時期になっている。

1 年前、我々の歴史的な土地に住む人々を守るため、我が国の安全を保障するため、そしてネオナチ体制による脅威を取り除くため、特殊軍事作戦が実施された。

この間に行われてきたこと

我々はこの問題を平和的手段で解決するために忍耐強く協議を行った。

しかし今、我々は、西側の指導者たちがドンバス（注 1）の平和を目指すとした約束が残酷な嘘であったことを理解した。

彼らは時間を引き延ばし、政治的な殺害や迫害に目をつぶり、ドンバスにおけるネオナチのテロ行為を奨励した。

キエフ政権は 2014 年の時点ですでにドンバスに大砲、戦車、飛行機を投入していた。ドネツクに空爆が行われた。2015 年にも彼らは再びドンバスへの直接攻撃を試み、しかも、封鎖、砲撃、民間人に対するテロを続けた。キエフと西側諸国との間では防空システム、戦闘機、その他の供給交渉が行われた。キエフ政権は核兵器を獲得しようとしていた。彼らは公言していたではないか。

米国と NATO は、我が国の国境付近に自国の軍事基地を展開し、ウクライナの政権に大戦争に向けた準備をさせていた。そして今、彼らはそれを公然と、あからさまに、恥じることなく認めている。

ミンスク合意も「ノルマンディー形式」も外交的なショーではったりだと言ったのけた。名誉、信頼、良識という概念は彼らにはない。

欧米諸国の評価

（欧米諸国の支配者たちは）何世紀にもわたって植民地支配、覇権主義を続ける間に、何でも許されることに慣れ、世界中を無視するようになった。彼らは自国民も同じように堂々と軽蔑し、騙している。彼らは「平和を模索し、安保理のドンバス決議を順守している」などと作り話を続けてきた。

我々はオープンかつ誠実に西側諸国との対話を行おうとした。すべての国家に平等な安全保障システムが不可欠だと主張してきた。我々が受け取った反応は偽善的なものだった。

ロシアとの国境への NATO の拡大、軍部隊の展開、核ミサイル防衛拠点の創設である。

米国ほど多くの軍事基地を自国の外に持っている国はない。その数は全世界で数百に及ぶ。

米国は中距離・短距離ミサイル条約をはじめとする、世界の平和を支える基本的な軍事協定を一方向的に破棄した。何の理由もない行動を米国がとることはない。

開戦に至る経過

2021 年 12 月、我々は米国と NATO に対し、安全保障条約の草案を正式に送った。だが、最も重要な原則はすべて、真っ向から拒否された。彼らが攻撃的な計画を止めるつもりはないことが最終的に明らかになった。

脅威は日に日に増していた。こうしたすべては、国連安全保障理事会が採択した関連文書や決議に完全に反している。にもかかわらず、皆が何も起きていないふりをしていた。

2022 年 2 月までにドンバスで再び流血の懲罰的な行動を起こすは疑いようがなかった。

繰り返したい。戦争を始めたのは彼らだ。我々はそれを止めるために武力を行使し、今後もこれを行行使する。

欧米諸国の非難への反論

西側の目的は無限の権力である。我々が守っているのは人命であり、自分たちの生家だ。

西側はキエフ政権を支援し、武装させるためにすでに 1500 億ドル（20 兆円）以上を費やした。これに対し、世界の最貧国支援に G7 諸国が割り当てた額は約 600 億ドル（9 兆円）だ。（OECD 2021 年）

実に分かりやすいではないか。

戦争に注ぎ込まれる資金の流れは細らない。他国の混乱やクーデターを助長するための資金もまた、世界中で惜しみなく注がれている。

ウクライナだけではない。2001 年以降、米国が始めた戦争による死者数は約 90 万人に達し、3800 万人以上が難民となった。米国はこうした全てを記憶から消し去り、何事もなかったかのように振舞っている。

何兆ドルという大金が動いている。万人から盗み続け、民主主義と自由を装い、ネオリベラル主義の価値観を流布している。

ある国やある民族にレッテルを貼り、指導者を公然と侮辱し、敵のイメージを作り上げる。

こうして経済的、社会的、民族間の問題や矛盾の拡大から逸らさせ、自国内の反対意見を弾圧する。

ネオナチの本質を隠蔽する西側権力者

欧米は 2014 年のクーデターを支援することで、ウクライナの「反ロシア化」を強行した。

クーデターは血なまぐさく、国家に反し、憲法に反していたにもかかわらず、まるで何もなかったかのように受け止められた。どれだけの金が投じられたのかまで報道された。

その思想的基盤にロシア嫌悪症と極めて攻撃的な民族主義が投入された。ウクライナ軍の旅団のひとつには、「エーデルワイス」の名が与えられている。

(かつてヒトラーの直属師団だったエーデルワイス師団は、ユーゴスラビア、イタリア、チェコスロバキア、ギリシャのパルチザンを虐殺し、ユダヤ人の国外追放、戦争捕虜の処刑を行った)

他にもウクライナ軍にはナチの師団名がつけられている。特に人気が高いのは、第 2SS 装甲師団「ダス・ライ」、第 3SS 装甲師団 トーテンコップ(髑髏師団)、第 14SS 武装擲弾兵師団「ガリーツィエン」などナチスの親衛隊だ。

装甲車にはナチスドイツの時のドイツ国防軍の記章が描かれている。

ネオナチは、自分たちが誰あるかということのを隠そうとしない。驚いたことに、西側諸国の権力者は誰もこのことに気づかない。

それは、彼らにとってはどうでもいいことだ。主な目的は我々と戦わせることだから。

ウクライナ政府は国民とは無縁だ

我々はウクライナ国民と戦争しているわけではない。ウクライナの国民は、キエフ政権とその西側の支配者らの人質となっている。

西側は事実上、この国を政治的、軍事的、経済的に占領し、産業を破壊し、その天然資源を略奪した。その論理的帰結が社会の退廃、貧困と不平等の爆発的な増加だ。

そのような状況では、おたがい他人のことなど考えない。人間は破滅のために準備され、最後は消耗品になってしまう。

ウクライナ紛争を煽り、犠牲者を増やした責任は、西側エリートとキエフの現政権にある。

この政権にとってはウクライナ国民は本質的に他人だ。ウクライナの現政権は自国の国益のためではなく、第三国の利益のために奉仕している。

ウクライナはロシア攻撃の突破口

西側諸国は戦況を変え、戦車など軍事供給を増やそうとしている。それについてあれこれ言うつもりはない。

だが、西側の長距離戦闘システムがウクライナに供与されれば、我々は対応せざるを得なくなる。

強力なロシアの建設

西側のエリートは自分たちの目標を隠そうともしていない。彼らははっきりと「ロシアに戦略的敗北」を与えるのが目標だと言っている。

つまり、彼らは局所的な紛争を世界的な対立の局面に転化させるつもりなのだ。この場合、話はすでに我々の国の存続に関わる。

大統領令によって 2021 年から 2025 年までの軍の建設および発展に関する計画が承認された。質的潜在力の向上を保証する最先端技術を積極的に導入する。

西側は我々に対して軍事的および情動的な戦線だけでなく、経済戦線も展開した。

ロシアとの経済関係を断ち切り、金融システムを通信チャンネルから断絶し、輸出市場へのアクセスをロシアから奪った。我々の外貨準備を盗み、ルーブルを崩壊させ、破壊的なインフレを扇動しようとした。

その結果どうなったか。

制裁の提唱者たちは自分で自分を罰している。自分たちの国で物価上昇、雇用喪失、事業閉鎖、エネルギー危機を引き起こした。そして国民に「悪いのはすべてロシアだ」と言っている。

ロシアの経済と統治システムは、西側が考えていたよりもはるかに強固であることが明らかとなった。

2022 年の国内総生産 (GDP) は 2.1% 減だった。予想は 20 ~ 25% 減、10% 減だった。

昨年 2 ~ 3 月には、ロシアの経済は崩壊すると予想されていた。ロシアは補給網を再構築し、責任感があるパートナーとの関係を強化した。

通貨と金融についても前進した。国際決済に占めるロシアルーブルの割合は2021年12月比で倍増して3分の1となった。友好国の通貨（人民元）と合わせるとすでに半分を超えた。

ドルやユーロは、西側の支配者たちがいまのやり方を続ければ、必然的にその普遍的価値を失うだろう。

強力な収支均衡政策をとったために、ロシアは外国で借金をしたり、頭を下げたり、お金をねだったりする必要はない。どのような条件で返すかについて長い間話し合う必要もない。国内銀行は安定かつ着実に営業しており、しっかりとした蓄えを持っている。

次に農業生産について触れる。昨年、農家は記録的な収穫をあげた。1億トン以上の小麦を含む1億5000万トン以上の穀物を収穫した。2023年6月30日までに、ロシアは穀物総輸出量を55億6000万トンまで伸ばすことになるだろう。

農業生産は二桁の成長率を示した。これはまるでおとぎ話のようで、10～15年前には想像もつかない数字だ。

労働市場も成長を遂げた。現代の状況で失業率の低下を成し遂げた。パンデミック前のロシアの失業率は4.7%だったが、現在は3.7%と歴史的な低水準にある。

景気動向について触れる。

去年は第2四半期のみ景気が後退したが、第3四半期および第4四半期にはふたたび成長と発展が見られた。

成長分野に変化が見られた。これまではアジア太平洋地域の世界市場への進出や、外国への原料供給が主要な成長分野であったが、最近では付加価値の高いモノづくり、ロシア自身の国内市場、科学、テクノロジー、人材の基盤が新たな成長分野として登場している。

ロシア国民の性格についてお話したい。

彼らはいつも誰よりも寛大で心が広く、慈悲深さと思いやりの深さで際立っている。我々は仲良くし、約束を守り、誰も騙すことなく、どんな時でも困難な状況にある人を支援し、困っている人がいれば、ためらうことなく助けに行く。

まさにロシアの民こそ、この国の主権の基礎であり、権力の源泉である。

戦略攻撃兵器削減条約をめぐる茶番

今月初め、NATO からロシアに対し、核の国防施設の査察を認めるよう要請が入った。「戦略攻撃兵器削減条約の遵守の精神に立ち戻れ」というのだ。

どこが「条約遵守」というのだ。

過日、キエフ政権がロシアの戦略的航空基地へのドローン攻撃を行った。

この作戦には西側諸国が直接的に関与していた。使用されたドローンは、NATO の協力を受けて装備され、アップグレードされた。

強調したいのは、米国と NATO は、ロシアに戦略的敗北を与えることが自らの目標だと明言していることだ。英国、フランスも核兵器を持ち、改良と開発を続けており、それらは我々、ロシアに対して向けられている。

2010 年に発効した条約には安全保障の不可分性、戦略的攻撃兵器と防御兵器の直接的な関連性についての重要な条項が含まれていた。

しかし米国は弾道弾迎撃ミサイル制限条約を脱退しており、すべて過去のことになっている。我々の関係が悪化したのは完全に米国の「功績」だ。

アメリカは世界を作り替えようとしている

ソ連崩壊後、彼らは第二次世界大戦の結果を修正し、米国が唯一支配する世界を築こうとした。そのために、第二次世界大戦後に作られた世界秩序の土台をすべてあからさまに破壊しはじめた。安全保障と軍備管理のシステムを解体し、世界中で一連の戦争を計画し、実行に移したのだ。

もちろん、世界の状況は 1945 年以降、変化している。発展と影響力の新たな中心が形成され、急速に発展しつつある。これは自然で客観的なプロセスであり受容すべきものだ。しかし、米国が自国の利益のためだけに、世界秩序を作り変えることは、受け入れがたい。

ロシア国防省とロスアトムはロシアの核兵器実験の準備を確実にしなければならぬ。もちろん、これは我々が最初に行うのではない。米国が実験を行うのであれば、我々も行う。

世界の戦略的均衡が破壊されるような危険な企ては誰も抱いてはならない。